青谷地区　地域づくり懇談会　　議事録

１　日　時　平成２６年１１月１８日（火）　１９：００～２０：０５
２　会　場　青谷地区公民館
３　出席者　地元出席者　　３７名
市側出席者　　１７名
深澤市長、羽場副市長、木下教育長、河井総務部長、田中企画推進部長、久野新市域振興監、森下文化財課長、高橋秘書課長
＜青谷町総合支所＞小林支所長、武田副支所長、秋田市民福祉課長、中宇地産業建設課長、早川水道局青谷営業所長
＜事務局＞馬場協働推進課長（司会）、岡本協働推進課課長補佐、酒本協働推進課主任、田中協働推進課主事

４　地域の重要課題について

１　青谷上寺地遺跡の利活用について

＜地域課題＞

「地下の弥生博物館」青谷上寺地遺跡は、国史跡指定へ文化審議会が答申するなど、弥生時代の極めて貴重な遺跡であり、青谷上寺地遺跡展示館をはじめとして、友の会や史跡保存活用協議会などの団体が、イベントや講演会の開催等、様々な活動を行っている。鳥取県では､青谷上寺地遺跡整備活用基本計画検討委員会を平成１９年から年次的に開催し、青谷上寺地遺跡整備活用基本計画を策定した。それに基づく鳥取市の今後の整備活用計画を説明してほしい。

＜担当部局の所見等＞

【教育委員会】

青谷上寺地遺跡の整備については、平成２２年３月に「青谷上寺地遺跡整備活用基本計画」が策定されました。史跡指定範囲は１４．６ｈａと広大であり、遺跡中心部と推定される範囲は主に鳥取県有地であり、鳥取市有地は主に西側部分の５．２ｈａです。この計画策定に当たっては、鳥取市も検討委員会に参加しており、県と市で協力して策定したものです。したがって、鳥取市単独の計画は策定しておりません。

基本計画では､体験学習やイベント広場などの補助的な整備ゾーンが想定されています。整備にあたっては、県が主体となりますが、鳥取市としても協力することとしており、今後具体的な検討について県と協議していくこととしています。

なお、史跡については、おおむね１０年（平成２９年度）を目途に公有地化を進め、公有地化が完了後、具体的な整備を開始する予定となっています。

整備が完了するまでの間は、鳥取市には現在青谷上寺地遺跡展示館がありますので、これまで通り、そこで貴重な出土遺物を展示するとともに、様々な体験事業を実施することとしています。

そのほか青谷上寺地遺跡史跡保存活用協議会によるソフト事業や県埋蔵文化財センター

青谷調査室による土曜講座等も実施されていますので、それらと連携した情報発信を引き続き進めていきたいと考えています。

（教育長）

上寺地遺跡の整備については、県が平成２２年３月に「青谷上寺地遺跡整備活用基本計画」を策定されました。この計画で指定されている範囲は大変広大であり、遺跡中心部は主に県有地、そして西側部分は市が所有する土地です。計画の策定にあたっては鳥取市も検討委員会に参加して県と市が協力して策定したため、鳥取市単独の計画は策定していません。

この計画では、体験学習やイベント広場などの補助的な整備ゾーンが想定されています。整備は県が主体となりますが、市も協力することとしており、具体的な検討については今後協議していくこととしています。なお、平成２０年に国から史跡の指定を受けましたので、概ね１０年の平成２９年度を目途に公有地化を進め、公有地化の完了後に具体的な整備を開始する予定です。整備完了までの間は、出土品等はこれまで通り青谷上寺地遺跡展示館に展示しますし、さまざまな体験授業も実施していく予定です。その他にも、現在実施されている「青谷上寺地遺跡史跡保存活用協議会」によるソフト事業や、県埋蔵文化財センター青谷調査室による土曜講座等と連携した情報発信を、引き続き進めていきたいと考えています。

（地元意見）

私は青谷上寺地遺跡を学ぶ会の役員をしています。現地の当面の美化活動として、この地域の草刈りをしたり花を植えたりしていますが、上寺地遺跡の魅力は、展示館の充実が一番だと思っています。青谷上寺地遺跡基本計画の中でも拠点施設について謳われていますが、財政上の都合で少し先になるかもしれないという話も聞いています。私は、早急に展示館の整備をすることが、交流人口の増加に一番効果的ではないかと思います。

また、考古資料が、県立博物館や県埋蔵文化財センター青谷調査室、あるいは総合支所の２階の収蔵庫など、方々に分散して保管されています。これを１か所にまとめて保管してほしいです。さらに言えば、青谷の出土品は、やがては重要文化財の指定を受けることにもなるかもしれないような貴重な物です。だから、そういう物をきちんと保管できる建物が必要だと思います。最近では県立博物館の再建問題も話し合われていると聞いています。県立博物館にも考古資料がかなり保管されていますので、整理する意味でも青谷町に立派な展示館を建設してほしいです。

専門家や考古学者などによれば、これほどの遺跡は他にないそうです。だから、青谷町とか鳥取県というレベルではなく、国際的な北東アジア低湿地遺跡調査研究所みたいな所を作ってはどうかというようことを言う人もあります。地方創生の良い材料にもなるのではないかとも思いますので、基本計画を尊重しつつもう少し夢を大きく持ってほしいです。県と市とが協力するということなので、市から県に強く要請をしてもらえたらと思います。

（教育長）

私も、上寺地遺跡は大変素晴らしい遺跡だと思っておりまして、青谷町や鳥取市だけで

はなく、本当に世界に発信できるものであれば良いと思います。ただ、県と市とが協力しながら進めていることもあり、やはりしっかりと検討しながら進めていかなければいけないと思いますので、教育委員会としては、今いただいたご提案をお伝えしたいと思います。

（深澤市長）

非常に壮大な構想も含めたご提案をいただき、ありがとうございます。上寺地遺跡は、青谷町はもとより鳥取市や鳥取県が誇れる、学術的にも大変価値の高い素晴らしい遺跡ですので、我々は将来に向けて保存や継承をしていかなければなりません。恒常的な施設というご提案をいただきましたが、そういったことも視野に入れながら、県と協議をしていくことになると思います。県立博物館も老朽化が進んでいますし、収蔵物も収蔵しきれない状況にあります。そのため、県では今いろいろな検討を重ねておられるところです。今後県と協議をしていく中で、青谷上寺地遺跡の保存、そして情報発信のあり方について、しっかり考えていきたいと思います。本日はご提案として承らせていただきたいと思います。

２　新市域振興ビジョンに係る青谷地区での取り組みについて

＜地域課題＞

平成２６年７月１３日に開催された「新市域の夢のあるまちづくりフォーラム」において新市域振興ビジョン（案）の説明があった。策定までのスケジュールでは、７月には市政コメント実施、９月には策定とある。しかし、５月のアンケート調査結果では、「詳しくは知らない」２７％、「知らなかった」６７％であった（７月発行チラシより）。このような状況では、新市域振興ビジョンが市民に十分に周知されているとは考えられない。青谷地区での取り組みについて説明してほしい。

＜担当部局の所見等＞

【企画推進部】

「鳥取市新市域振興ビジョン」は、合併１０年目の節目の機会に、８町（新市域）の現状と課題を整理し、これから１０年先の８町のめざす将来像を描き、新市域の夢のあるまちづくりを実現するための方向性を示す目的として、本年８月に策定しました。

策定までには、「新市域振興ビジョン」（中間まとめ）を作成し（３月）、５月に、鳥取市インターネットモニターに登録されている１００名にアンケートを実施し、策定が進められることについての設問をしました。ビジョンを作成していることを知っておられる方は３３％の回答でした。

この結果も踏まえて、７月にビジョンの作成状況等のチラシを新聞に折り込み、また、７月７日から２２日まで市民政策コメントを実施して、新市域の夢のあるまちづくりフォーラム、地域審議会、鳥取青年会議所、鳥取市若者会議に内容の周知を図りながら市民のみなさんの意見をお聴きして策定いたしました。

ビジョンは、市の公式ホームページ、青谷町総合支所、地区公民館で閲覧できるようにしています。

現在、地域それぞれのめざす将来像を実現させるために「推進計画」を各総合支所で作

成しています。来年度から、各総合支所が中心となり、地域のみなさんと一体となって、計画的に新たな事業の具体化を進めていくこととしております。

【青谷町総合支所】

新市域振興ビジョンでは、青谷町の１０年先に目指す将来像として、「だれもが住み続けたいまち・住んでみたい町　青谷町」と位置づけ、重点的に取り組む必要性がある項目を推進計画として取りまとめているところです。

青谷町の推進計画の柱として、

１　地域コミュニティの増進、活力のあるまちづくり

２　地域資源の有効活用による、魅力あるまちづくり

３　安心・安全なまちづくり

といった３つの大項目を掲げ、それぞれの項目、

１の地域コミュニティの増進、活力のあるまちづくりについては

・地域生活拠点の整備

・地域活性化イベントの再構築

・地域コミュニティの充実

・青谷町内の保育園・小中高等学校を核とした地域活性化として

①「卓球のまち青谷」の復活

②国際交流事業の継続、拡大

③保育園、小中高との連携強化

２の地域資源の有効活用による、魅力あるまちづくりについては

・地場産業の育成

・歴史的資源を磨きあげ交流人口を増加

３の安心・安全なまちづくりについては

・自主防災組織の充実と連携

・災害時要援護者支援制度への登録啓発（新規登録、追加登録の促進）

・ひとり暮らしの高齢者世帯へ「安心ホットライン」設置の啓発

といった９つの目標を挙げ、推進計画の骨組みとしています。

この目標の実現に向けて、支所と地域の保育園から小・中・高等学校、まちづくり等の関係団体、市の関係各課との連携を強化し、また、地域審議会（来年度の地域振興会議）で推進計画を報告し、修正・見直しを行っていきながら、取り組んでいきたいと考えています。

（新市域振興監）

今年の１１月１日で、鳥取市が合併して１０年を迎えました。それに併せて、平成２５年１０月に新市域振興監という部署ができ、合併後１０年の成果のまとめや今後１０年を見通したビジョンを創るということで動き始めました。

「新市域振興ビジョン」は今年８月に策定したもので、全体が９５ページあります。計画策定までには、３月に中間まとめを作成し、５月にインターネットモニター１００名に対して、ビジョンに関するアンケート調査を実施しました。そのアンケートの回答で、「ビ

ジョンを作成していることを知っている」と回答された方が全体の３３％しかなく、あまり知られていなかったということが分かりました。

これを踏まえて、新聞折り込みを実施したり、「夢のあるまちづくりフォーラム」においてビジョンの周知と内容のＰＲを行いました。「夢のあるまちづくりフォーラム」は３会場で開催し、１会場１００名以上、合計３３０名の皆様にご参加いただきました。

また、「市民政策コメント」も実施しました。これは、市の大きな政策を実施する場合に、幅広く市民の皆様からご意見をいただくものです。「市民政策コメント」では、地域審議会や鳥取青年会議所、若者会議などに出向いて説明させていただき、ご意見をいただいたりもしています。

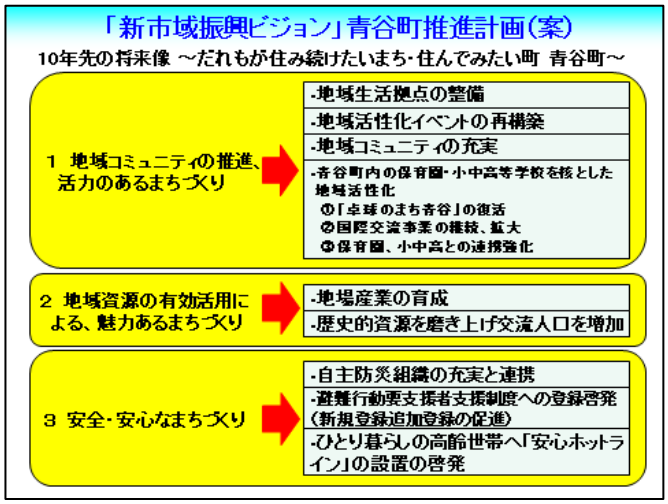
「新市域振興ビジョン」は、市の公式ホームページに掲載していますし、各総合支所と各地区公民館にも置いています。本日は概要版を皆様にお配りしています。

ビジョンには、各総合支所ごとの合併１０年を迎えての現状と課題、及び将来像を掲載しています。そして、今後のまちづくりのキーワードとして「高速道路のネットワーク」や「山陰海岸ジオパークのエリア拡大」などを挙げ、これらを活かしながら新市域の課題を、全市を挙げて一体的に解決していこうとまとめています。

具体的な取り組みについては、各総合支所で「推進計画」を作成中です。その計画に基づき、各地域が一体となって新たな計画に取り組んで具体化していこうと考えています。

（支所長）

「新市域振興ビジョン」では、青谷地域が目指す将来像を、「だれもが住みつづけたいまち・住んでみたいまち　青谷町」と位置付け、この将来像の実現に向け重点的に取り組む項目を、推進計画として現在取りまとめているところです。



青谷地域の推進計画では３つの項目を柱としています。まず１つ目として、「地域コミュニティの推進、活力のあるまちづくり」、２つ目として、「地域資源の有効活用による、魅力あるまちづくり」、３つ目として、「安心・安全なまちづくり」の３つです。

１つ目の「地域コミュニティの推進、活力のあるまちづくり」では、さらに細かく４つの目標を掲げています。まず、「地域生活拠点の整備」として、青谷地区の地域再生拠点事業などが入っています。また、「地域活性化イベントの再構築」として、ようこそまつりや夏祭り等の有効活用、あるいは西地域のイベント協力やＰＲなどを考えています。「地域コミュニティの充実」としては、まちづくりリーダーの発掘や育成を考えているところです。そして、「青谷町内の保育園・小中高等学校を核とした地域活性化」として、「卓球のまち青谷」の復活や国際交流事業の継続、拡大、そして保育園、小中高等学校との連携強化を考えています。

２つ目の「地域資源の有効活用による、魅力あるまちづくり」の項目では、２つの目標を掲げています。まず、「地場産業の育成」として、農林水産業や商工業等の実態把握や振興を図っていきます。また、「歴史的資源を磨き上げ交流人口を増加」ということで、上寺地遺跡や山陰ジオパークの再認定等を活かした人口増加を考えています。

３つ目の「安全・安心なまちづくり」の項目は、３つの目標を掲げています。まず、「自主防災組織の充実と連携」として、集落等の自主防災の組織化等を考えています。次に、「避難行動要支援者支援制度への登録啓発」、さらに、「ひとり暮らしの高齢世帯へ『安心ホットライン』の設置の啓発」も目標としています。

以上、それぞれ３つの項目に、細かく９つの目標を掲げて、推進計画の骨組みとしています。この目標の実現に向け、総合支所と地域の保育園、小中高等学校、そしてまちづくり等の団体、市の関係各課との連携を強化していきます。併せて、計画の実施状況等を、地域審議会、来年度からは地域振興会議という名前に変わりますが、ここで報告させていただき、修正や見直しをしながら取り組んでいきたいと考えています。

なお、推進計画の具体的な取り組みとして挙げている、青谷地区の地域生活拠点再生事業では、賑わいの場の整備として商業集積を計画しており、先週には大型ドラッグストアが開店しましたし、１２月中旬の開店に向けてコインランドリーを建設しています。併せて、駐車場の整備も行っているところです。また、旧中央公民館を来年度取り壊す予定ですので、憩いの場の整備として、その跡地に広場等の整備を検討しています。この他にも、ＪＲ青谷駅前の整備や中町通り等の修景整備を計画しています。

今年１０月に、この事業に関する３つの部で構成される市民委員会を立ち上げましたので、その中で検討し、計画を進めていきたいと考えています。

５　市政の課題等についての意見交換（フリートーク）

（地元意見）

今回、井手ヶ浜の方までジオパークとして認定されましたが、青谷町の町内の方は歩道があるのに井手ヶ浜の方は歩道がありません。降りたらすぐ浜です。そのため観光客が来ても、歩く気がしないようです。ジオパークが井手ヶ浜まで拡大されたこの機会に、散歩できる歩道ができても良いのではないかと思います。

（深澤市長）

歩道を整備するのが良いのかどうかについては、少し検討が必要かなというのが率直に感じたところです。素足で歩いて砂が鳴るということで、非常に評価が高く注目されている所です。ジオパークは、京丹後、経ヶ岬からこの青谷町まで、１２０ｋｍの非常に広い

エリアです。今は、３府県と関係の自治体で一緒に利活用を考えているところですが、世界ジオパークネットワークへの加盟が認定されてちょうど４年で再認定を受けたということで、今後また、将来に向けさまざまな活用方策を考えていくことになると思います。浜までの歩道部分が、どのような形態が相応しいのか、全体の利活用の中で検討させていただければと思います。

（地元意見）

合併して１０年が経過しましたが､人口減少は市全体としても大変な課題だと思います。ビジョンの概要版にも書いてありますが、青谷町は合併後の１０年間で１７％以上も人口が減少しており、佐治町に次いで２番目の減少率です。さらに、高齢化も非常に進んでいます。市は、人口が減るがままにしておきますか。魅力あるまちづくりということでいろいろな構想を考えているようですが、とにかく人口を増加させるということについて、何か策を考えていますか。例えば、結婚すれば当然子どもが増えるのだから、そのあたりを補助金を作って進めていくなど、いろいろな施策が考えられると思いますが、市として何か考えていることはありますか。

（深澤市長）

減るがまま、ということではいけないと考えています。人口減少や少子高齢化は、全国の自治体の共通課題です。最近では、特例市の会議や市長会などで市長が集まると、必ずこの話題になります。それぞれの市町村で子育ての支援や雇用の創出、あるいは若者の定住やＵＪＩターンの推進などに取り組んでいますが、これは逆に、どこも同じ対策をしていて都市間で競争をしているということも言えるわけです。

鳥取市の人口減少の大きな理由としては社会動態が挙げられますが、その中で、学校を卒業された若い方が、卒業後に鳥取で就職されず市外あるいは県外に転出されるために、全体として人口が減少していることが明らかになっています。ですから、まずは若い方に鳥取市に定着していただくことが必要であり、そのためには働く場が必要だと考えています。今年から雇用創造戦略として、今後４年間で５千人以上の雇用を生み出していくよう計画的に取り組んでいるところです。具体的には、地場産業や地域産業の底上げや支援を行っていくことと企業誘致を進めていくこと、この２本立てで進めていくことが当面の課題だと思っています。

また、若い方の働く場を確保するだけではなく、鳥取は良い所であり、魅力あるまちだと感じていただけることが必要だと考えています。鳥取には、素晴らしい資源がたくさんあります。こういったものを最大限活かして、魅力あるまちにしていかなければならないと思います。

人口減少を食い止めるべく、働く場を確保し子どもを産み育てやすい環境を整え、そして魅力のあるまちづくりを進める、これを総合的に取り組んでいきたいと考えています。

（地元意見）

青谷地域づくり連絡協議会は、青谷上寺地遺跡、鳴り砂保全事業、長尾鼻の自然を守る会、ふるさとＰＲ隊、青谷ゆめ灯籠、美化活動の６つに分かれて活動をしています。この

協議会の今年の決算額がかなり減額しました。これは、決して市からの補助金がカットされたからではありません。地域活動に参加する市の職員が非常に少なくなり、活動が減少したからです。観光協会や商工会でも、イベントについては同じように減少しているようです。４年前に、このことを前市長に話したら、前市長は労働組合に相談してみると言いましたが、その後何も聞かないので、おそらく駄目だったのだと思います。今年８月に県知事に同じことを話したら、県職員はそういうことは全くないと言われました。何故かというと、前知事の時から、県職員は地域のボランティア活動には必死になって取り組んでいるからだそうです。

そういう現状です。先週の市議会選挙でも、限界集落地区のゴーストタウンのようなまちを選挙カーが走っている姿は本当に空しいものがありました。地域はますます衰退してきています。市の職員には、生まれ育った地域のボランティア活動や活性化事業に、ぜひとも参加していただきたいと思います。

（深澤市長）

分かりました。不十分なところもあるかと思いますが、地域の皆様と一緒にいろいろな活動に取り組んでいくことは、職員として非常に大切で必要なことだと思っています。今後も地域での活動にしっかりと取り組んでいくように、改めて市職員に呼びかけていきたいと思います。

（地元意見）

私は地域住民として子ども達をずっと見守っています。そして今、なぜ子どもたちが少ないのかを考えているのですが、若い方が青谷町から出て美萩野や浜村に行っているのだと思います。何年か前までは青谷町に住む所がなかったので、新居を構えたいけど青谷にはないということで外に出ていったのではないでしょうか。最近では中郷や養郷の辺りに新しい住宅地ができ少しは定着したと思いますが、その人達も結局は勝部から出て来られた方です。

今、青谷のまちなかは空き家だらけだし、住んでいる人も高齢者ばかりです。今頃の考え方でいけば、新しい住宅地を造ってという考え方もあるかもしれませんが、空き家が活用できないかと考える人もあると思います。鹿野町では空き家対策をしていて、すでに空き家が足らないそうです。そのあたりで鹿野町と連携できれば良いと思いますし、西地域に限らず全市で横のつながりをもっと持てば良いと思います。

また青谷町は、自然、特にマリンスポーツはどこにも負けないと思います。マリンスポーツが好きな人は冬でも来るし、来るなと言っても来ます。来てくださいと言わなくても来てもらえるような人をどう活用するかだと思います。この辺りは良い所だということになって青谷町に引き入れることができれば、そこからまた口コミで広がり、ますます人が増えると思います。地元の人を引き留め、定着させることも大切ですが、外の人を入れることも考えていかなければいけないと思います。

（地元意見）

私は、４５年間大阪に暮らしていました。定年退職して青谷に帰ってきましたが、青谷

は自然がいっぱいで星もきれいで、そして水が美味しいです。ああ、田舎は良いなあとつくづく思います。私は高校卒業してすぐ大阪に行きましたが、大阪の夜空を見ても排気ガスで星が見えませんでした。昭和４３年頃に尼崎に転勤しましたが、あの当時はもう本当に公害の町でした。今は尼崎港や大阪湾もだいぶきれいになりましたが、自然は取り返しがつきません。だから、青谷は良い所だと私はつくづく思います。

（深澤市長）

自然がいっぱいで星がきれいというのは、空気が澄んでいるということだと思いますし、水が美味しいのも大変素晴らしいことです。こういったことは、今まさに多くの皆様が求めておられることではないかと思います。そういった素晴らしい自然環境を守り継承していくことが大切です。そこからすると、この青谷地域は大変自然豊かで素晴らしい所だと思います。

青谷はマリンスポーツのメッカだから、市外からより多くの若い方に来ていただけるのではないかというご提案もいただきました。今日も道路関係の要請活動等で東京に行って来ました。山陰自動車道については、吉岡青谷間は平成２０年代に通れるようにと国土交通省が言っておられますが、青谷鳥取西インター間も何とか平成２９年度までに供用開始ができるようにと関係先にお願いしています。供用開始されれば、企業誘致等も市内全域、特に西地域等は非常に有力な候補地となります。今、県外企業のリサーチがこちらに向いています。鳥取は、地震を始め災害のリスクが非常に少ないので、リスク分散や生産拠点をこちらに持ってくることを目的に、企業誘致が順調に進んでいるところです。雇用の場の創出、そして地域経済の活性化ということで、これから大いに希望が持てるのではないかと思います。そうすれば、若い方に地元に残っていただくのは元より、市外からこちらに来ていただけることも、今後は期待できると思っています。

また、空き家に関して鳥取市が横の連携や情報の共有などをしてはどうかというご提案がありました。貸していただけるかどうかについては、所有者のご意向やお考えもあるので難しい面もありますが、まずそういった情報を共有して有効活用できる方策を考えていくことも必要だと思っています。

人口が、これ以上減少しないようにいろんな方策を考えていかなければならないと思っています。

（教育長）

お答えではないのですが、一言つぶやかせていただきたいと思います。

始めに、青谷中学校は今年プレハブ校舎が完成し、いよいよ新校舎に取りかかっていきますのでご承知ください。

今のご発言で、昔の光化学スモッグなどのお話がありました。私も尼崎に居住していた時期があります。大変苦労しながら教員生活を送っていたことを、今のお話で思い出しました。鳥取の自然は本当に素晴らしいと思います。青谷も然りです。この自然の素晴らしさというのを、都会にいる人達があまり知らないということがあります。そのあたりをどのように発信していくべきかと、私はいつも思います。伝えなければ気づきません。そこを、どのように工夫しながら伝えていくのか、まさにそこが問われているのではないかと

思います。マリンスポーツを通じてというご提案もあり、確かにそういう手もあるなと思いました。もっともっと当たり前の発想、普段こうだと思っている発想から１つ頭を切り替えて、どのような方法が良いのかということを皆様で議論されると、きっとおもしろいものが出てくるのではないかと思います。

（地元意見）

地域の発展というと、どうしても経済的なことが主になってしまうと思います。金もなければいけませんが、金だけではいけないと反省もしてきています。

全てを賛成というわけではないのですが、静岡県では「富国有徳の理想郷“ふじのくに”づくり」を掲げておられます。徳のある地域を作ろうということで、これがいわゆる文化振興であり教育振興なのですが、金だけに捉われないまちづくりを進めれば、そこに生活の潤いも出てくるのではないかということです。いろいろな事業の中に、そういうことを忘れないで取り入れてほしいです。取り入れてほしいというよりも、我々が自らの反省としてそうあらねばならんと感じています。

（深澤市長）

ありがとうございます。金や経済効率だけを追求するのではなく、ここに住んで良かったと心豊かに暮らしていけるまちを、我々は築き上げていかなければならないと思っています。少子高齢化ということもありますが、日本が世界に先駆けて成熟社会となってきたかなと思っています。今後のまちづくりは、今おっしゃったことを今まで以上に大切にしながら進めていくことが求められているのではないかと、お話を伺いながら思った次第です。そのような考え方で、今後もさまざまな事業に取り組んでいきたいと思います。

６　市長あいさつ

今日はお忙しい中、このように大勢の皆様にご出席いただき、そしていろいろなご提言やご意見をいただいたことに、心から感謝申し上げる次第です。本当にありがとうございます。この地域づくり懇談会は２年に一度の開催ですが、この懇談会以外の時でも、何かご意見等がありましたら、いつでもいろいろな形で承りたいと考えています。これからも、どうかよろしくお願い申し上げます。

合併してちょうど１０年を迎えました。人口減少等もありますが、将来を見すえて皆で力を合わせ、「住んで良かった」と思えるようなまちにしていかなければならないと思っています。

市政にはいろいろな課題があります。庁舎問題もまだ解決ができていませんが、自信と誇り、夢と希望の持てる鳥取市に向かっていくためのまちづくりを、これからも皆様と一緒に進めていきたいと思っていますので、引き続きよろしくお願い申し上げます。

本当に熱心にご議論いただいたことに重ねて感謝申し上げ、閉会にあたってのご挨拶とさせていただきます。本日はどうもありがとうございました。